

探究活動の取組が紹介されました。

今年度、SS研究発展Ⅰ及びSS特講Ⅱにおいて、本校生徒が生ゴミの肥料化を題材に探究活動を行いました。その活動が北斗市の広報で紹介されました。

二人は北斗市出身で、自分たちの住むまちの更なる発展と、循環型社会につながるよりよいまちづくりを現在も模索中です。活動は、様々な人の協力があって進められた研究であり、人と繋がり、様々な角度から助言いただけたことに、改めて二人は感謝を語っていました。



函館中部高校2年 ^{まきの すみれ} 牧野 堇恵さん(上磯中出身) ^{しらいし ななき} 白石 菜々稀さん(浜分中出身)

函館中部高校の牧野さんと白石さんが、北海道教育委員会主催の「探究チャレンジ・アジア」で「生ゴミの肥料化による自治体の経済負担」をテーマに研究発表を行い、ゼロカーボン探究賞を受賞した。

二人は給食の残飯処理に疑問を感じたことをきっかけに、北斗市特有の細かいゴミ分別に注目。「分別は大切だと分かっているけど面倒に感じてしまう。だからこそ、資源をリサイクルしてゴミの量を減らせるなどの良い点を一人ひとりが理解し、自分事として実行することが大切だと思いました」

探究過程について、「データ収集に苦労しました。信頼できるデータとは何か、どう集めるべきか、登下校時や放課後に何度も話し合い、最終的には自治体のオープンデータも活用しました。研究発表により、生ゴミの肥料化はコストがかかるものの循環型社会の形成につながっていることを知り、SDGsの観点からこのような先進的な取り組みを行っている北斗市を誇りに思っています」

将来は人との関わりを大切にする仕事に就きたいという二人。現在は、次世代への啓発活動として、小学生でもわかるゴミ分別動画を自作中だそうだ。

「環境に配慮した行動をとってほしい。将来のために適切な選択ができる力を、総合学習などを通じて子どもたちに伝えていきたい」と意気込みを語った。